

東日本大震災福島県復興ライブラリー

ブックガイド

No. 4

2013.9.4

■福島第一原発事故

『カウントダウン・メルトダウン』上・下巻

船橋洋一／著 文藝春秋 2012.12 LS543.4/F17/1-1,1-2

民間事故調を設立し、『福島原発事故独立検証委員会調査・検証報告書』の刊行に携わった著者が、緻密な調査と取材から描き出したノンフィクション。被災地となった町村・官邸・米軍・米国務省などが何を考え、どう行動したのか、事象ごとに非常に緊迫感のある文章で記されています。メディアではほとんど報道されなかった言動や出来事も多く、現地から米国までに渡る著者の取材の幅と量の膨大さは圧巻です。2013年第44回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作。

■復興・防災

『ボランティア奮闘記 若い力が未来を変える』

日本財団広報グループ／編 木楽舎 2013.5 369.31/ニホ 135

日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)が派遣した学生ボランティアたちの活動の記録をまとめたものです。過酷な環境の中で懸命に作業する姿、活動を通じた被災地の人々との交流、活動に真剣に取り組むほど感じる無力感など、若者たちの様々な表情を垣間見ることができます。東日本大震災後、「自分も何かしたい」という思いを、実際にボランティア活動という行動に移した若い世代が数多くいることに希望を感じます。ボランティア活動に励む福島大学生の座談会も収録されています。

■雑誌

『科学』 2013年5月 Vol.83 No.5

岩波書店 2013.4 Z405/K2

岩波書店発行の雑誌『科学』。震災以降は原発関連の特集を度々組んでいます。2013年5月号は、2013年2月の福島県民健康管理調査検討委員会で発表された0～18歳の甲状腺がん健診の結果について考察した論文「3.11以後の科学リテラシーNO.8」(東京工業大学・牧野淳一郎／著)と「多発と因果関係 -原発事故と甲状腺がん発生の事例を用いて」(岡山大学・津田敏秀ほか／著)を掲載。今後の詳細な報告を望むとともに、調査のあり方や対策について疑問を投げかける内容となっています。

■子ども向け

『土の話』

小泉 武夫／文 黒田 征太郎／絵 石風社 2013.3

福島の「土」が原発事故と放射能汚染について語ります。人間は土を耕し、家を建て、道路を作り、工場を建て、発電所をつくりました。そして、放射能を「ぶっかけられた」土は、怒りながらも「土壌微生物」による浄化の可能性を示します。文を書いた小泉武夫氏は福島県小野町出身の醜醜学者。微生物の専門家です。「放射能は誰にも見えねべ。」「こりねでまだ放射能なんていじりまわしたらよ、今度こそ何もかも終わりだもんない。」と語る阿武隈弁に説得力がある絵本です。